

# 特集 自然災害に備える

6月以降は、台風・大雨などによる風水害が発生しやすい時期です。特に、近年、気候変動による集中豪雨の増加によって、日本各地で甚大な土砂災害が頻発しており、毎年、人的被害が発生しています。災害発生時の対応、事前準備は何をすればいいのでしょうか。梅雨、台風シーズンの到来前に、改めておさらいしてみましょう。

## 松浦市における風水害記録

平成28年9月28～29日

### 集中豪雨

志佐川高野橋下流域

5,420人(2,403

世帯)に避難勧告

昨年度(令和3年度)

は、8月11日から18日にかけて記録的な大雨が続き、県内の6市町に大雨特別警報が発令されました。長崎市や雲仙市、波佐見町では、地すべり等によって住宅が全壊するなど、多くの被害が確認されました。

### 集中豪雨

市全域に避難勧告

平成30年7月6日～7日

令和元年8月27日～9月7日

### 大雨

総雨量526.5ミリ

不老山地すべり

今福町北免浜ノ脇地区

がけ崩れ

松浦市においても、8月11日から18日までの1週間にかけて、計753ミリの大雨が降りました。

市内全域に避難指示が出され、家屋の全壊1棟

一部損壊1棟、道路25か

所、河川5か所、農地22

か所および農業用施設8

か所の被害が確認されました。

また、9月には大型の

台風が接近するなど、私

たちの生活が脅かされる

場面が増えてきています。

### 台風9号

市内全域に避難勧告

1,042人(573世帯)

が公設避難所等へ避難

令和3年8月11日～18日

### 大雨

総雨量753ミリ

市内全域に避難指示

# 1. 情報を確認する

災害のとき…

## ラジオ

### テレビ（データ放送）

松浦市では、NBC（3チャンネル）にて防災情報などを発信しております。リモコンのdボタンを押して確認してください。

### 松浦市ホームページ

各種ハザードマップや、避難場所などを掲載しております。

### 防災行政無線

デジタル化に伴い、市役所からの放送内容が下記の方法でも受け取れるようになりました。

#### 防災メール

QRを読み込み、空メールを送信ください。



#### LINE

QRを読み込み、友達登録をしてください。



#### Facebook

QRを読み込み、フォローしてください。



## 事前情報

ハザードマップ

避難場所

気象情報

河川水位情報

など



### 松浦市防災アプリ

避難所、ハザードマップ、防災行政無線の放送内容など、松浦市の防災情報が1つに！市報裏表紙QRよりダウンロードしてください。



## 複数の情報収集手段を確認しましょう

災害が起こる恐れがあるかを判断する目安としては、気象庁が発表する注意報や警報が一つの判断材料となります。

災害時は、普段の情報収集先が使えなくなる可能性もありますので、防災行政無線やテレビ、インターネットなど複数の情報収集手段を持ちましょう。

## 防災情報が手元で確認できます

市では、多くの人に防災情報を収集してもらえよう、4月1日から「松浦市防災アプリ」の運用を開始しました。

アプリに表示される地図上で市内の危険箇所や最寄りの避難場所を確認することができます。

また、防災行政無線で放送した防災情報やお知らせなどがアプリにも配信されます。

るため、出かけている人、松浦市に家族や友人がいる人も簡単に松浦市の情報を取得することが可能です。

## 自分にあつた方法を検討しましょう

アプリに加え、松浦市が運営するライン、フェイスブックにも同様の情報を送信します。

災害が起こる危険性が高い時にメールを送信するサービス「防災メール」の運用も行っています。

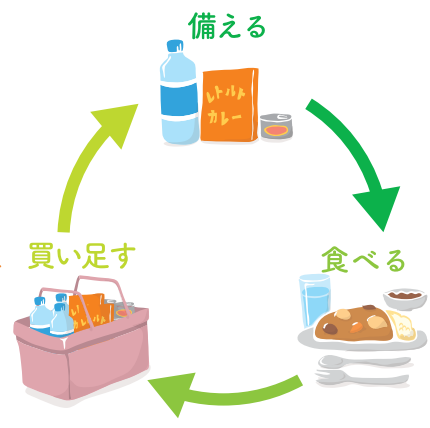
皆さんも活用しやすい方法で防災情報を取得し、大雨等の災害に備えましょう。

## 事前の情報確認が重要です

緊急時に対応するためには、自宅や職場付近の環境について事前に把握が必要です。上記の防災関連情報を確認し、周辺の気象、環境について情報を収集しておきましょう。

## 2. 事前に備えておく

家庭での備え



食品、日用品は、日常的に使用しながら備蓄する「ローリングストック」がおすすめです。

### マイ・タイムライン

防災アプリでは、非常時の持ち出し品チェックリストや自分に合った避難方法を作成、確認する機能があります。事前に作成しておけば、非常時に確認することが一目で分かります。



CHECK!!

### ☑非常持ち出し品チェックリスト

- 非常食
- ペットボトル飲料
- トイレットペーパー
- タオル
- ライター
- ウエットティッシュ
- 常備薬・持病薬
- 救急医療品（絆創膏、包帯など）
  
- 軍手・手袋
- 万能ハサミ
- レジャーシート
- 毛布（サバイバルブランケット）
- 簡易トイレ
- ローソク
- ポリ袋
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 現金（公衆電話用小銭）
- 油性マジック
- 筆記用具

平時がチャンス！身の回りから備えましょう

もし今、自然災害が発生したら、必要なものを整理して素早い避難ができるでしょうか。

災害時には危険な場所からすぐに離れることが最優先ですが、その後の生活のことも考えなければなりません。生活に必要なものは、災害時には手に入らないこともありま。平時だからこそ、身近なところから備えておきましょう。

### 災害時の持ち出し品を確認しましょう

災害時は、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まる可能性があります。

普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

各家庭でいざという時に備える「非常持ち出し品」のチェックリストをまとめています。リストを参考に、ご家庭で必要なものの検討、準備を進めてみてください。

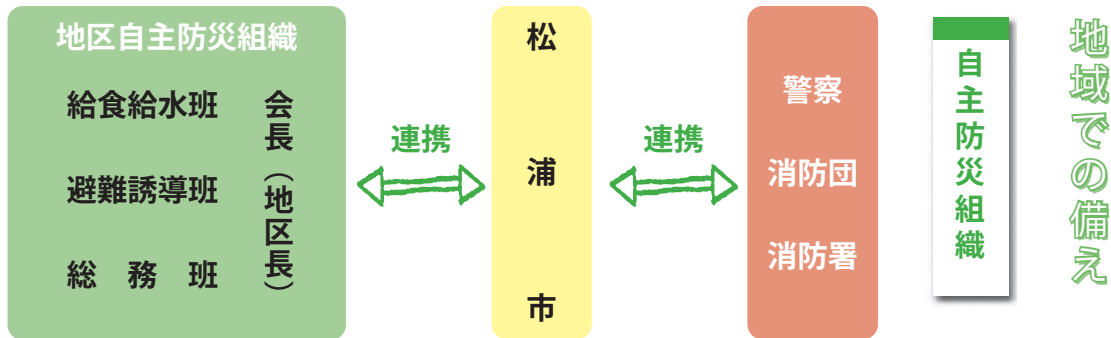
### 普段の食品を活用する「ローリングストック」

緊急時専用の食品以外にも、レトルト食品や缶詰など、常温で長期間保存できる食品は非常時の食事に活用できます。





このような食品を普段から少し多めに買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法を「ローリングストック」と言います。

災害時には、3日〜1週間分の備蓄が必要とされています。

## 組織図



## 活動内容

避難誘導	給食・給水	消火	救出・救護
 平常時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難経路・場所の把握</li> <li>● 避難誘導訓練の実施</li> <li>● 防災資機材の確保・点検</li> <li>● 要支援者の把握など</li> </ul>	 平常時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人備蓄の推進</li> <li>● 給食・給水訓練の実施</li> <li>● 機材・食料の確保、点検</li> </ul>	 平常時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出火防止の啓発</li> <li>● 初期消火訓練の実施</li> <li>● 消火用水の確保・点検</li> </ul>	 平常時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 救命講習への参加</li> <li>● 応急医薬品、救助機材の確保・点検</li> <li>● 技術を持った人材の把握</li> </ul>
災害時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報の収集</li> <li>● 避難の呼びかけ</li> <li>● 要支援者の避難支援</li> <li>● 避難場所での安否確認など</li> </ul>	災害時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食料や水、救援物資等の受け入れ、配布</li> <li>● 必要に応じた炊き出しなど</li> </ul>	災害時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初期消火活動</li> <li>● 出火防止等の指示</li> </ul>	災害時 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 速やかな救出</li> <li>● 負傷者の応急手当</li> <li>● 避難所での救護協力など</li> </ul>

※活動の一部を記載しています

大災害が発生したとき、私たちの住む地域はどうなるのでしょうか。建物の倒壊、火災の発生、水道や消火設備・道路の損壊などによって多数の負傷者が出るのが想定されます。

各地で多発する被害に対して公的防災機関の対応が遅れる場合もあります。災害時、自宅の周辺や地域の皆さんの状況はいかが

## 地域の防災 皆さんはどう向き合いますか

この方法であれば、専用の非常食を新たに購入しなくても、緊急時に必要な食料を確保することができます。

また、この方法は、日用品にも応用ができます。非常時には、輸送手段の停止や、買占めなどにより商品が品薄になる場合もありますので、日頃から備蓄をしておきましょう。

## 地域防災の第一歩 「自主防災組織」

被災を最小限に抑えるためには、自宅の周辺にも目を向け、普段から地域の防災について考えることが大切です。

地域の危険箇所を共有し、避難の方法などを確認するには、日頃から、地域の皆さんで防災について話し合う機会と、専門家などの情報共有が必要です。

自主防災組織は、まさにその目的のために全国各地で結成されています。(一般的な組織の構成と活動内容を上段に記載) 自然災害が増えてくるこれからの季節、この機会に家庭・地域の防災について皆さんで考えてみませんか。

問合せ先 防災課

☎内線317